

小児看護学実習評価表

小児看護学実習：3年後期開講 2単位 必修科目

到達目標

- 子どもとその家族との関わりを通して、発達段階や健康レベルを踏まえた援助的人間関係が形成できる。
- あらゆる健康レベルの子どもを、個々の成長・発達過程の中で総合的に捉え、援助の具体的な方法が理解できる。
- 入院している子どもとその家族を受け持ち、子どもの発達段階を考慮した看護過程の展開ができる。
- 入院中や外来受診中の子どもを対象として、小児看護に特有な検査や処置、特殊技術について経験し、子どもの危機的な状況を理解するとともに、子どもへのインフォームド・コンセントやインフォームド・アセント及びプリパレーションの重要性について考えられる。
- 子どもにとって安全・安楽な環境を整えることの重要性を理解できる。
- 他職種との連携及び社会資源の活用について理解できる。

実習期間 年 月 日～ 年 月 日
 A：できた B：ほぼできた C：少しできた D：ほとんどできなかった

評価項目		自己評価			
		A	B	C	D
関係形成	子どもの発達段階に合わせた言語的・非言語的コミュニケーションの工夫ができる。	関係形成において、工夫したことを3つ以上具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを2つ具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを1つ具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを具体的に説明できない
	十分な説明や納得が得られるような関わり等、子どもの権利を尊重した関わりについて考えられる。				
子ども理解	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響がわかる。	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に3つ以上実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に2つ実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に1つ実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に援助できなかった
	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助ができる。				
看護過程の展開	受け持ち児の病態生理、治療の状況がわかる。	疾病関連図が正しく書けた	疾病関連図が助言によって書けた	疾病関連図が助言があってもあまり書けなかった	疾病関連図がほとんど書けなかった
	必要な情報を収集し、科学的な根拠に基づいてアセスメントし、問題点が抽出できる。	全体像にアセスメントと問題点が示せた	全体像にアセスメントと問題点がだいたい示せた	全体像にアセスメントと問題点の一部が示せた	全体像にアセスメントと問題点がほとんど示せなかった
	受け持ち児と家族の個性を考慮した援助計画が立案できる。	個性性を考慮したプランが立案できた	個性性を考慮したプランがだいたい立案できた	個性性を考慮したプランが少し立案できた	個性性を考慮したプランがほとんど立案できなかった
	立案した計画に沿って援助を実施できる。	計画にそって実施でき、適切な評価と計画の修正が記載できた	助言を得て計画にそって実施でき、評価と計画の修正がだいたい記載できた	助言を得たが計画にそって実施できず、評価と計画の修正が少しだけ記載できた	計画にそってほとんどできず、評価と計画の修正が記載できなかった
	実施した援助について評価し、計画の修正ができる。				
技術の実践	小児看護に特有な検査や処置、特殊技術についての見学・介助が実施できる。	見学及び介助が3場面以上実施でき、検査・処置時の子どもの反応や工夫について述べられた	見学及び介助が2場面実施でき、検査・処置時の子どもの反応や工夫について述べられた	見学及び介助が1場面実施でき、検査・処置時の子どもの反応や工夫について述べられた	見学及び介助ができず、検査・処置時の子どもの反応や工夫について考えることができなかった
	患児の反応を的確にとらえ、表現できる。				
	患児が安心して検査や処置が受けられるように、患児の年齢や状況にあわせた工夫について考えることができる。				
環境調整	患児にとっての安全（事故防止、感染防止）や安楽な環境について考えることができる。	生活援助や検査処置時の見学を通して、安全・安楽について具体的に考えられた。	生活援助や検査処置時の見学を通して、安全・安楽について考えられた。	生活援助や検査処置時の見学を通して、安全・安楽について少し考えられた。	生活援助や検査処置時の見学を通して、安全・安楽についてほとんど考えられなかった。
連携	意欲的にカンファレンスに参加し、自分の意見が言える。	メンバーシップ・リーダーシップの考えのもとに積極的に役割を果たした	メンバーシップ・リーダーシップの考えのもとに役割を果たした	メンバーシップ・リーダーシップの考えのもとにあまり役割を果たせなかった	グループの中での役割がほとんど果たせなかった
	看護師と他職種との連携について考えることができる。	様々な他職種との連携について考えたことを記述できた	2つの他職種との連携について考えたことを記述できた	他職種との連携について1つ考えたことを記述できた	ほとんど考えられなかった
総合自己評価（学生）					
総合評価					

小児看護学保育所実習評価表

学生番号

氏名

(小児看護学保育所実習)

実習期間 令和 年 月 日～ 令和 年 月 日

A: できる B: だいたいできる C: 少しできる D: ほとんどできない

評価項目		自己評価				理由	指導者評価
		A	B	C	D		
関係形成	発達段階に合わせた言語的・非言語的コミュニケーションの工夫	関係形成において、工夫したことを 3つ以上 具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを 2つ 具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを 1つ 具体的に説明できる	関係形成において、工夫したことを具体的に説明できない		A ・ B ・ C ・ D
子ども理解	成長発達を考慮した日常生活の援助ができる	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に 3つ以上 実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に 2つ 実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に 1つ 実施できた	子どもの成長発達に合わせた日常生活の援助を、具体的に援助できなかった		A ・ B ・ C ・ D
環境調整	事故防止や感染防止を配慮した環境の調整ができる	3つ以上 について、環境の調整ができた	2つ について、環境の調整ができた	1つ について、環境の調整ができた	ほとんどできなかった		A ・ B ・ C ・ D
連携	①看護師と他職種との連携について考えることができる ②グループ間の協力が積極的に行える	様々な他職種との連携やグループ間の協力が積極的に行えた	様々な他職種との連携やグループ間の協力が行えた	様々な他職種との連携やグループ間の協力が助言によって行えた	様々な他職種との連携やグループ間の協力がほとんど行えなかった		A ・ B ・ C ・ D
出席状況	欠席日数 日 遅刻 回 早退 回						
総合評価 (学生)						総合評価 (指導者)	

サイン